耳鼻咽喉科（補聴器相談医）への受診で、おひとりおひとりにあった適切なアドバイスを受けることが期待できます。

新潟大学 医学部
耳鼻咽喉科 頭頸部外科
教授 **堀井　新** 先生

「テレビの音が大きくなった」、「大勢での話が聞こえにくい」、「周りが騒がしいとよく聞こえない」、「聞き返すのがイヤで、聞こえているふりをする、そのせいで人と会うのがおっくうになった」ということはありませんか？このような「聞こえにくさ」を感じたら、耳鼻科を受診して聴力検査を受けましょう。その結果によっては、補聴器を付けたり、場合によっては聞こえを良くする手術を受けましょう。見えにくくなったら、視力検査を受けて眼鏡を買ったり、白内障の手術を受けるのと一緒です。違うのは、「聞こえにくさ」を放置すると、認知症やうつ病を発症する確率が高くなることです。けれども遅くはありません、初期であれば進行を止めたり、生活の質を保つことも可能です。

聞こえをよくする方法はいろいろあります。補聴器が代表的ですが、新潟県では耳鼻科で書類を書いてもらえば購入に助成金があります。また、補聴器は眼鏡とちがって買った後の調整が非常に大事で、それには認定補聴器技能者がお手伝いしてくれるお店で購入することが大事です。中耳炎では手術で聞こえを良くしたり、難聴が高度な場合は人工内耳の手術をすることもあります。いずれも健康保険が使え、高齢者でも安全に受けることができます。

耳鼻咽喉科医、特に補聴器相談医は、患者さんそれぞれの状況に合わせて、どのように「聞こえにくさ」を改善していくかをアドバイスするプロフェッショナルです。普段の生活で「聞こえにくさ」を感じたら、我慢したり放置しないで耳鼻咽喉科を受診してみてください。きっと、生活が変わると思います。

新潟大学医歯学総合病院　耳鼻咽喉・頭頸部外科
〒951-8520 新潟県新潟市中央区旭町通1番町754 TEL 025-223-6161(代表)

- 医療機関からの紹介状を必ずお持ちください。
- 専門外来への受診をご希望の方も、まずは一般外来へ受診していただきます。
- 直接専門外来へ受診することはできませんのでご了承ください。

聞こえのチェックシート

当てはまる項目にレ印を付けてください

1. 会話をしている時に聞き返すことがよくある。 □
2. 後ろから呼び掛けられると気付かないことがある。 □
3. 聞き間違いが多い。 □
4. 見えない所からの車の接近にまったく気がつかないことがある。 □
5. 話し声が大きいと言われる。 □
6. 集会や会議など数人の会話でうまく聞き取れない。 □
7. 電子レンジの「チン」という音やドアのチャイムの音が聞こえにくい。 □
8. 相手の言ったことを推測で判断することがある。 □
9. 騒音の多い職場や大きくうるさい音のする場所で過ごすことが多い。 □
10. 家族にテレビやラジオの音量が大きいと言われることがよくある。 □

0～2個	現状は問題ないと思われますが、「聴こえ」は急に衰えることもあります。**定期的に耳鼻咽喉科（補聴器相談医）を受診**し、耳の検査をしましょう。
3～4個	一度、**耳鼻咽喉科（補聴器相談医）に相談**してみてはいかがでしょうか。
5個～	**できるだけ早く耳鼻咽喉科（補聴器相談医）の診察を受ける**ことをおすすめします。

（日本補聴器工業会ニュースレターより引用）

聴こえにくい？

と感じたら、まずはお気軽に耳鼻咽喉科受診をおすすめします。

補聴器相談医による加齢性難聴の治療選択

【監修】新潟大学 医学部　耳鼻咽喉科 頭頸部外科

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
新潟県地方部会

加齢性難聴とは

加齢性難聴とは、加齢が原因で聴力が低下する現象で、音を感じる能力が低下する感音難聴の一つです。年齢とともに、音を感じる細胞は少しずつ減っていきます。聴力の低下は、さまざまな社会生活に影響を及ぼすだけでなく、うつ病や認知症を引き起こすリスクも秘めています。

加齢性難聴の根本的な治療法はありませんが、初期段階から補聴器などで「聴こえ」を補うことで、自身の音を感じる能力を最大限に発揮し、聴力を維持することが期待できます。

「聴こえないのは年のせい」と諦めずに、早めに耳鼻咽喉科医を受診しましょう。

加齢性難聴の治療選択

難聴の程度	聴力レベル	きこえの状況
正常	25dB 未満	小さな声やささやき声も聞こえる
軽度難聴	25～40dB 未満	小さな声や騒音下での会話が聞きづらい 聞き間違いや聞き返しをすることが多い
中等度難聴	40～70dB 未満	普通の大きさの声の会話が聞きづらい
高度難聴	70～90dB 未満	普通の大きさの声の会話が聞き取れない
重度難聴	90dB 以上	耳元で話されても聞き取れない

補聴器

人工内耳

（日本聴覚医学会の資料をもとに作成）

治療の第一選択 → 1 補聴器の装用

補聴器装用でも効果が不十分な高度・重度難聴 → 2 人工内耳の装用

1 補聴器の装用

補聴器を購入する際は耳鼻咽喉科（補聴器相談医）の受診をおすすめします。

補聴器がうまく適合するかどうかを判断するために、事前に検査や診察をおすすめします。

特に次の8項目のいずれかに該当する場合は、補聴器店が直接補聴器を販売することが禁止されています。まず、耳鼻咽喉科（補聴器相談医）の受診をお願いします。

- 耳の手術を受けたことがある。
- 最近3ヶ月以内に耳漏（耳だれ）があった。
- 最近2ヶ月以内に聴力が低下した。
- 最近1ヶ月以内に急に耳鳴りが大きくなった。
- 外耳道に痛み、またはかゆみがある。
- 耳あかが多くたまっている。
- 聴力測定の結果、平均聴力の左右差が25dB以上ある（左右の聞こえの差が大きい方）。
- 聴力測定の結果、500、1000、2000Hzの聴力に20dB以上の気骨導差がある（人の声は聞きにくいのに自分の声やものを噛む音は大きく聞こえる方）。

補聴器を購入される際の医療費控除や補助制度について

補聴器が必要と補聴器相談医が判断した場合、認定補聴器店宛てに所定の様式の情報提供書を発行します。この情報提供書に基づいて認定補聴器店が補聴器を販売した際には、購入代金は医療費控除の対象となります。詳細は申告する税務署にお問い合わせください。

また、聴覚障害による身体障害者手帳に該当する方は、障害者総合支援法により補聴器購入時に補助を受けられます。

それ以外でも補助を受けられる場合がありますので、詳細はお住まいの市町村にお問い合わせください。

2 人工内耳の装用

人工内耳の構成

人工内耳は体外に装着するサウンドプロセッサと、体内に埋め込むインプラントの2つの装置により、電気信号で聴神経を刺激する医療機器です。

耳掛け型サウンドプロセッサ　コイル一体型サウンドプロセッサ　インプラント

人工内耳の聴こえのしくみ

人工内耳は補聴器を装用しても会話が困難など装用効果が不十分な方に対する効果的な聴覚獲得法です。

人工内耳手術は平成6年4月より健康保険の適用となっております。

また、高額療養費制度、心身障害者（児）医療費助成などの申請や自立支援医療制度などの適用で、個人負担を軽減することができます。

詳しくは、自治体の担当窓口、または手術を受ける病院の医療福祉相談窓口にご確認ください。

資料提供:株式会社日本コクレア